



かわら版・創刊三周年記念 高校生特集

第二回目は、矢板東高等学校

生徒会の皆さんが記事を作成してくれました



毎年十月に開催され、矢東生だけでなく、市民や市内の高校に通う学生など、多くの方が楽しみにしている花火大会。楽しみである反面、疑問もあった。今回私たちは、この花火大会の疑問を探るべく、立ち上がった。

実行委員会の皆さんにインタビュー♪



- Q. 花火大会をはじめた年・きっかけは？
- A. 平成十九年から始まり、今年で四回目です。矢板市制施行五十周年記念プレ事業としてはじめました。
- Q. 花火によって変わったことは？
- A. 市外から矢板市を訪れる方が多くなりました。
- Q. この時期に開催する理由は何？
- A. 県内の花火大会の多くは、八月中旬に開催します。また、一部の地域では、五月〜六月中に開催します。特色を出すには「一番〇〇」と云うのが原則であり、矢板の場合は「県内で一番遅い」花火大会として知名度確保に励んでいます。
- また、矢板市には、安全確保しやすい場所「広い河川敷等が良い」がない

ので、稲作等の収穫が終わった田が広がっている現在の場所と時期を選びました。

- Q. 花火がよく見えるお薦めスポットは？
- A. 大会本部付近です。
- Q. 花火大会において心がけていることは？
- A. 市民力の結集と安全の確保です。開催するにあたって、大変なことは？
- A. Q. 大会の前準備や当日の様々な役割分担や、翌日の片付けや清掃のための人員の確保、関係機関への各種申請書類の作成です。
- Q. 花火の打ち上げ場所を変更した理由は？
- A. 実行委員会と矢板警察署で協議した結果、安全性の確保を最優先し、今年この場所に變更しました。
- Q. 開催の準備は何ヶ月前から？
- A. 約六ヶ月前からです。

矢東生の声を聞きました



毎年この花火大会を楽しみにしています。花火大会やお祭りは、八月とかで終わってしまうし、矢東のビックイイベントである矢東高祭も九月の始めなので、矢



東高祭の後の唯一の楽しみがこの花火大会なのです。花火大会のメインである打ち上げ花火は、さまざま種類のものがあって、楽しく見ることができました。中には、ドラえもんなどのキャラクター花火もあって、可愛かったです。とてもきれいだっただので、ついつい見惚れちゃいました。来年もまた、行きたいです♪

今年の花火大会は、実行委員会をはじめとする関係者の努力と、地域住民の協力で、去年以上の盛り上がりを見せた。打ち上げ花火は、多くの見物客を魅了し、大成功を収めた。主催者発表によると、今年の見物客は約八万人。去年よりも約一万人多かったという。矢板市の名物の一つである花火大会。来年も再来年も、きっと見物客を魅了することだろう。